

第40回みんなのタウンミーティング会議報告

- 1 開催日時 令和8年4月25日（土） 午後1時30分～3時
- 2 開催場所 前原暫定集会施設
- 3 参加者 市長及び市民5名
- 4 会議次第
 - (1) 開会
 - (2) 市長あいさつ（市政報告）
 - (3) 懇談（フリーテーマ）
 - (4) 閉会
- 5 懇談内容要旨

	件名	ご意見・ご要望等	市長からの回答等
1	社会福祉協議会の対応について	社会福祉協議会では、現金のほかに使用期限の切れていないレトルトや缶詰など食品の寄付を受け付けています。 ところが、現金であれ食品であれ、私が持っていくものだけは、受け取ってもらえません。確かに寄付というものは、法律上は受け取る側が拒否できます。でも、そういうことをされると寄付の意味がなくなります。 あるときなど、断られたものの問答の末渋々受け取ってもらいました。すると、社会福祉協議会の係員が町会長と副会長にわざわざ電話をして、盗んだ金ではないか確認したと、後になって知りました。あまりにも差別的で、いったいどういうことかと、非常に腹が立っています。現に、私の横で寄付として数本の缶コーヒーを持ってきた人からは、拒否することなく受け取っていました。私とどう違うのでしょうか。 なぜ私だけ断られるのか、その理由をきちんと文章にして、社会福祉協議会からもらえるように、市長から言っていただけないか。	今の御意見があったことは、社会福祉協議会にしっかりとお伝えさせていただきます。ただ、必ず文書で回答が貰えるかどうかは社会福祉協議会の対応次第になりますので、そこは御理解ください。
2	小金井市に所縁のある著名人に関する情報発信について	小金井市に何らかの所縁を持つ人々が、日本や世界で活躍することを応援したいというのは市民として自然な感情だと思いますが、市民一人一人では、彼らの存在と近況を知るすべがありません。 そこで提案したいのは、スポーツ、芸術、芸能、文化などの分野で大舞台に臨んでいる市と所縁を持つ方々の近況を、ご本人の迷惑にならない範囲内で市が定点観測的に取材し、3か月に一度程度市報に掲載するような形で情報発信していただけないかということです。 知ってさえいれば応援するといった市民は相当数いると思いますし、何より市内の子どもたちが「小金井市は、頑張れば地元みんなが応援してくれるまちだ」と認識してくれれば、それが長期的なシビックプライド形成、市民の団結力、ひいてはふるさと納税対策の第一歩になると思います。市の応援の姿勢が伝われば、市外から才能ある作家さんが集まるなどして、さらに市内が盛り上がるという好循環に繋がるかもしれません。 新刊、新作、参加大会の情報などは、提供するタイミングが特に重要かと思います。検討課題はあるかと思いますが「つなごう人の輪 小金井市」と謳っておられる以上、実現に向けた一環として取組をお願いしたいと思います。また、そうした小金井市の顔となる皆さんへ、市民を代表しての応援メッセージ、お祝いメッセージなどをお願いできれば幸いです。	小金井市出身、小金井育ちの方で頑張っていたいただいている方々、市民にとってもそういったことを知るのは嬉しいはずですので、今いただいた御意見も含めて何ができるか考えたいと思います。

3	市内教習所と連携した CoCo バス運転手の確保について	ドライバーの確保が困難として、京王バスから CoCo バス 2 路線の運行終了の申入れを受けたとのことですが、ドライバーを小金井市側が用意すれば路線維持は可能かとも読めます。小金井市内に 3 校ある自動車教習所に協力していただき、教官を在籍出向の形で京王バスに転属して CoCo バス専任運転手になっていただいてはいかがでしょうか。教習所の教官であれば、運転テクニックのみならず、車両のメンテナンスや同乗者への安全配慮にも長けているはずで、コミュニティバス運転手への適性は高いと思われる。そして、不特定多数の乗客の安全を預かる責任の重さを適切に反映した手当相当額を、小金井市が本来の教習所給料に上乗せする形で支給すれば、教官本人の所得とモチベーションは高まるでしょう。教官にとって、関与する車両こそ普通車から中型バスになりますが、一般車両の大型バスよりは運転のプレッシャーは小さいはずで、中型第 2 種免許の取得に先立つ運転の練習も自社の教習コースで納得いくまで行えるはずです。 自動車教習所で発生する出向教官分の欠員は、シルバー人材センターがリタイア後のシニア世代に募って代理教官として従業してもらい、その報酬相当額を小金井市が負担するのが良いと思います。特に 60 代のシニア世代は人口が多いだけでなく、車好きで自動車保有者がどの世代よりも多く、運転テクニックもさほど低下していない運転人材の宝庫です。一方で、リタイア後にキャリアチェンジして車の運転職を求めると、苛酷で人材が定着しない宅配便ドライバーぐらいしかないでしょう。 そこで、車に関わる仕事がしたいリタイアシニアに向けて、主に子ども世代以下を相手にした教習所での運転指導の職を用意すれば、自らハンドルを握る場面が少ないためプレッシャーが小さく、一方で、管理職等を経験した指導好きも多いため、やりがいを持って取り組めるはず。教習所側でも、技量は至らずとも最低限の合格点は得られると思います。 この提案の主旨は、第一に若い世代の車離れが叫ばれる中、自動車教習所教官のマンパワーに余裕が生じているなら、それを有効活用したいということ。第二に一般求職者向けにいきなりバス運転手募集では、求職者の精神的ハードルが高過ぎるので、自動車教習所の普通自動車運転指導者を募集して、玉突きで CoCo バスの運転手を確保するというものです。 このスキームで進めるならば、小金井市が負担しなければならないのは、まず京王バスへ在籍出向する教習所教官に支給する上乗せ手当、プラス教習所欠員を補充するシニア人材向けの報酬となります。この費用よりも、中町循環、東町循環 2 路線を維持した場合の標準利用便益のほうが大きいと判断できるかどうかですが、ご納得いただけるのであれば、一度、関係者の間で調整をされてみてはいかがでしょうかと思っています。	CoCo バスの中町循環と東町循環については、北東部循環を巻き込んで若干のルート再編を行い、さらに、東町循環はポンチョ（小型バス）ではなく CoCo バス・ミニにするということをもって、路線そのものは維持できるという方向で、現在整備をしているところです。 ただ、ここで整備できたとしても、ドライバーの高齢化が進みますので、いずれはドライバー不足がもっと顕著になってくると思っています。そのうえで、御提案いただいたことについては、何ができるか考えたいと思います。 例えばポンチョの運転には大型車両を運転するための免許が必要になりますし、人を乗せるバスを運転するためには二種免許が必要です。教習所という地域資源があるというのは事実ですが、仰っていただいた教習所がどこまで大型に対応できているか把握できておらず、そこどう連携できるかということについて検討できていませんでした。 京王バスからの申出の後、この路線を維持するということに眼目を置き、地域公共交通活性化協議会でしっかり協議しようということだけでしたので、中長期的に見てもっと厳しくなるということを踏まえて考えると、御提案いただいたようにもっと新しい取組が必要で、人材を生み出す仕組みにしないといけないと思っています。
4	小学校のトイレの悪臭について	数年前に、第三小学校のトイレが古くて臭いがすごいということは何となく耳にしたことはありましたが、このところで小学校 P T A の方と話す機会があり、実態を聞きました。小学生の間でも評判が悪く、子ども達の意見を聞いた P T A の方々が学校側に申入れをしても、学校施設というのは市の持ち物だから、学校側から能動的に設備を更新したりすることがなかなか難しいというやり取りで終わってしまうそうです。	まず、清掃回数はすでに週 2 回になっています。他の小学校でも P T A の方々がトイレ掃除しているという話があり、そういったやり取りも含め課題として聞いています。 現在、第一小学校の建て替えに向けて 3 回目の入札公告をしています。当初の順番では、最初に建て替えるのは第三小学校でした。そのため、もうすぐ建て替えるからということで、第三小学校の古いほうの西校舎を含めたトイレの整備が後回しになってきたという経緯があります。

		清掃回数も、例えば武蔵野市では週に3回、4回行われるのに、小金井市は週に1回しか行われておらず、週1回では、いくら子ども達がマナーを守りながら使っていても粗相をすることもあるので、それが1週間そのままになっていることが、さらにまた臭いの原因になっていると考えているということでした。その辺りも学校とも相談したらしいですが、やはり予算の問題で難しく、PTAの方々が自分達でやるしかないということで、数年前から頑張っていると聞きました。 小学生達も、臭いのせいで給食を食べたくないという子がいたり、授業中も集中できなかったり、汚いトイレに行きたくないからと水分摂取を我慢してしまう子もいると聞きました。どのようなことができるのか考えていただき、また、私達で協力できることがあればと思っています。	ところが、順番を変えて、第一小学校を先に建て替えなければならざるを得なくなり、第三小学校はその後になったため、そのままの古い設備のままでなっているところ、恐らく大きな根本的な原因なのではないかと思っています。 問題はやはり配管です。古い配管を整備していませんので、恐らくそこから臭いが上がってくるのではないかということです。それについてどうするかということを、この間、教育委員会でも検討してもらい、どちらかといえば対症的にはなりますが清掃回数を増やす予算をつけるといった対応はしてきました。 第三小学校の現状は聞いていなかったので、改めて確認しようと思います。教育長と、できることについてはやろうという話しをしておりますので、引き続き教育委員会でも考えてもらい、改善策を考えていきたいと思っています。
5	新庁舎・（仮称）新福祉会館建設に関する市民意向の実現について	建設計画調査から基本設計にかけては、プロポーザル設計協議の前にワークショップやパブリックコメントを通じて、市民の意見を取り入れて進めてきた経緯があります。しかし、基本設計時に行われたパブリックコメントで、150名から395件もの要望が示されたものの、行政側が市民への説明を行わない状態が続き、その結果として、住民投票問題まで起きたということが経緯としてあります。 市民が建設プロセスに参加して意見を述べたにもかかわらず、その意見がどのように扱われ、最終的な計画にどう反映されたのか語らないことは、市長への不満や不信感を招く可能性があります。寄せられた意見に対する丁寧な説明と計画への反映を検討することが重要だと思います。	市民の意向については、当時の基本設計のパブリックコメントのところでも触れられています。それが重要だということは当然分かっていますが、今はそれを問う段階ではありませんので、ご意見として受け止めさせていただきます。
6	新庁舎・（仮称）新福祉会館建設に関する財政の説明責任について	建設事業費について、令和4年度には90.7億円だった工事費が令和8年度には174億円、総額242億円となり、そのうちの借金総額は132億円です。ここで3回目の入札に入ろうとしています、総額が大幅に増額されているにもかかわらず、市民への説明が行われないという状況は、財政の透明性に著しく欠けていると思います。市民がピラを配ったり、署名活動を通じて情報公開を求めている状況にあり、これは市民が財政状況に対し強い懸念を抱いているということの表れです。 市長は議会において、金額に対しての説明はしないが、理解を求めていると話されましたが、市長案と市民が提案している見直し案の比較表を、統一した評価項目で市民に周知することは、財政の透明性を確保し、市民の理解を求める上で非常に有効な手段と考えますがいかがでしょうか。	説明会は必要なタイミングで行います。
7	新庁舎・（仮称）新福祉会館建設に関する信頼関係について	市民が市長案と見直し案の比較表を自ら作成し、署名活動などを行って市長案の課題を訴えている状況は、行政と市民との間の信頼関係が損なわれていることを示唆しています。比較情報が市民に提供されず、議論の場が設けられないことは、行政への不信感をさらに増幅させると思います。信頼関係を再構築するためには、白井市長が市民の疑問や懸念に対し真摯に向き合い、公開の場で、合理的で科学的な根拠に基づいて、説明を行うことが不可欠です。市長選の争点化を避けるという政治的な判断が、結果として市民との信頼関係を大きく損ねている可能性を認識するべきです。 なぜ市民案から提示されている大きな差を問わないのか、なぜ税金を払う市民に、これから進むべき方向について説明をしないのか、なぜ見直し	信頼関係について、捉えていらっしゃるのと私の見ている見え方がもしかしたら違うかもしれませんが、それが大切だということはよく分かりました。 庁舎だけではなく福祉会館も含めてですが、本庁舎も既に築60年と老朽化が著しい状況です。第2庁舎は賃貸で、議会からも解消するよう求められています。庁舎問題の解決は積年の課題ですので、やらなければなりません。 学校は学校で、子どもたちの教育の場であり安全な環境というのが第一義なわけですから、それはそれでやらなければなりません。学校についても、令和3年によく「長寿命化計画」を策定しましたが、それが遅かったという経過ではあります。そういったことから、両方ともやらなければならないという状況にあるということは、申し上げておきます。

		ないのか、なぜ規模縮減を行わないのか、それが非常に疑問です。市民の意見を尊重し、建設的な議論を通じて市民が納得できる形でプロジェクトが進む、その姿勢を自らが先頭に立って示すべきです。 令和10年度に着工予定という、竣工は令和13年ということになります。平成31年に設計者が選定されているので、13年前の設計を、132億円借金をして建てることになります。学校トイレの清掃とメンテナンスをするのに1億円もかからないはず。学校が大変な状況にあると理解されているのであれば、なぜそこに予算を使わないんですか。 なぜ高齢者や、妊婦や、身体に障害のある方が主に使う福祉会館が耐震構造で、市長や議員が使う建物が免震構造なんですか。市長の説明では、耐震強度は同じ重要度係数1.5で設計しているから問題ないと言われますが、中に入るのは家具ではなく人間です。大地震が起こったとき、ご自分は安全な建物の中にいるけれど、高齢者や障害者は、揺れがすごくて立ってられないという状況になります。 議員から止められる可能性はありますが、このままでは全く市民のほうを向いていないことになります。ぜひ計画は見直していただきたいと思いますがいかがでしょうか。	
--	--	--	--